

9月8日(土)

ジャパントウン視察

午前 ジャパントウン視察

今回の記念事業の大阪市民の自主親善企画として、ジャパントウン内で日本漫画家協会の南久美子氏と玉地俊雄氏の漫画展が開催されていた。玉地氏は故手塚治虫氏の弟子で、「戦後、日本マンガ発祥の地大阪・松屋町&スピリット」と称し、数々の作品を展示されていた。

このジャパントウンは、戦前、約5,000人の日系人と200以上の日系企業でにぎわった米国有数の日系人街であったが、日米開戦で日系住民が強制収用所に送られて以降、急速に衰退した町は現在、東西600m、南北300m程度と最盛期の5分の1ほどの狭い地域に、約千人が暮らしている。また、住民の大半は高齢化した2世である。

もともと、ジャパントウンは、1960年代にサンフランシスコ市の意向により、現在のジャパントウン・エリアをより日本らしく観光地化する計画が持ち上がり、1968年、ジャパンセンターが建設され、日本からサンフランシスコ市に贈られた五重塔は広場の中心にすえられて、日米親善の宣伝に利用された。

美しく生まれ変わったジャパントウンは、今や日本好きのアメリカ人や観光客にとって、格好のオリエンタル観光スポットとなっている。日本食レストランや書店、土産物屋などが集まったジャパンセンター、そこを歩く人の半分以上は、非日系人である。

しかし、ここ何年かのうちに、ジャパントウンのあちらこちらに韓国語の文字が増え始めており、日本文化と韓国文化の区別がつく非アジア人は少なくなり、少しずつ、でも急速に、ジャパントウンはその様相を変化させつつある。

「OSAKA WAY」 除幕式

16:00～18:00

場所：日本町 ブキャナンストリート

出席者：ギャビン・ニューソム市長

ロス・マーカリーミ議員

マーク・チャンドラー国際貿易部長

サンフランシスコ大阪姉妹都市協会



平成 19 年 2 月、サンフランシスコ代表団来阪の際、サンフランシスコ市のニューソム市長より、姉妹都市提携 50 周年を記念し、同市日本町にあるブキャナンモールを「OSAKA WAY」と改名することが表明され、両市友好関係のシンボルとしての同標識の除幕式を行った。

また、關市長からは、「大阪市役所のある中之島公園の再整備を計画しており、そこに、サンフランシスコにちなんだ銅板を置くことを検討している」と挨拶があった。

サンフランシスコお盆祭り

除幕式が終わり、場所を変えてお盆祭りが始まった。いつもは静まりかえっている日本人町が、この日ばかりはたくさんの人が集まっていた。半数以上がアジア系、おそらくはその大部分が日系人のようであった。

明るい音楽が流れ、盆踊りが始まり、子どもも大人も列になって、櫓を囲み踊りだした。みんな仲良く浴衣姿で上手に盆踊りを踊っていた。

日本語をまったく解さない4世や5世の時代になってなお、祖国を思う心が引き継がれ、大切に守ってきたものが、日本人町であり伝統行事であると感じた。